



奨学生ら支援感謝

介護福祉士や保育士
指導者らと意見交換

生命保険協会青森県協会(出山和彦会長)は21日、奨学金を支給され技術を学び、2018年度から現場に巣立つ介護福祉士、保育士とその指導者らとの意見交換会を青森市で開いた。給付を受けた奨学生らは、支援に感謝していた。

介護福祉士を対象にした制度は生命保険協会が1989年度から実施。原則的に返済義務はなく、1人当

たり年間24万円が支給されている。これまでに132人が利用した。また、保育士養成給付型奨学金制度は17年度から始まり、今春卒業する2人が1期生となる。



会合の冒頭、出山会長は「少子高齢化が進む中、役割は大きい。学校で学んだことを社会で生かしてほしい」と期待。奨学生に卒業記念品の名刺入れを贈った。

介護福祉士を目指して勉強に取り組んできた八戸学院光星高専攻科の佐々木梨緒奈さん(20)は八戸市出身。取材に「ずっと介護を勉強してきた。介護される側の立場に立って携わりたい」と笑顔を見せた。

(庄子鉄平)

記念品の名刺入れを使って
出山和彦会長(左)と名刺を
交換する佐々木梨緒奈さん